外国語学部

外国語学部の初年次教育では、1年次において「スチューデントスキル」、「スタディスキル」、「2年次以降の学びの導入（教養教育とモラル教育）」、「自校史教育（自大学の歴史や沿革）」の4つの領域の定着を全クラス統一の到達目標とします。大学生・社会人として必要な知識・技術、そして責任感を身に付け、本学の建学の精神と歴史を学び、2年次以降のより専門的な学びへつなげていくことができるようにします。

外国語学部の教養教育では、①言語、②人間理解、③比較文化と歴史、④データサイエンスと情報処理、⑤スポーツ、⑥現代社会、⑦自然と環境、⑧実務、⑨グローバル活動等からなる教育課程とし、幅広い教養を身に付け、広い視野に立って物事の公正な判断ができるようにします。
人文・社会に関する英語コンテンツも提供します。
また、現代社会に不可欠な情報リテラシーを身につけるため「情報リテラシー」を全員が学びます。

外国語学部の専門教育では、体系的に専門分野を学ぶことができる講義系科目を提供するとともに、1年から4年までの全ての学年に少人数の演習系科目を配置することによって、きめ細かな学習サポートも併せて行います。1年次から演習科目として基礎科目(A群)を履修するとともに、講義科目(基礎科目(B群))を履修して専門の基礎を学びます。3年次からは上級科目(A群、B群)とともに、「専門ゼミナール」を履修、4年次では卒業研究に全員が取り組みます。

外国語学部の教職教育では、「教育職員免許法」に基づいた課程を設置し、中学校教諭と高等学校教諭の免許取得が可能です。教科に関する科目として「英語」の免許状が取得可能な科目を配置しています。
外国語学部のキャリア教育では、実務に関する科目としてキャリア教育の科目を配置し、建学の理念である「知徳一体」を学び、自身の将来を考え行動することを実践することによって、どのような仕事に就いても必要とされる社会的及び職業的自立を図るための能力を身に付けます。
3年次からは、専攻の専門分野の学修を通して修得した専門的な知識や経験の社会的活用を視野に、実践力を身に付けられるようにします。

（専攻別のカリキュラムポリシー）
【英語コミュニケーション専攻】
英語学・英語教育・コミュニケーション学を3つの柱として構成されたカリキュラムを学ぶことができるようにします。
1年次及び2年次に週6コマ分の演習(基礎科目(A群))を課し徹底的に鍛え、英語を用いて読み、書き、聞き、話すことができるようにします。3年次からは身に付けた英語を用いて、関連分野の研究を進めることができるようにします。

【英語・リベラルアーツ専攻】
英語を通して国際的に広がる情報にアクセスし、文化・社会・歴史などの教養をグローバルな視点で理解し、発信することができるようにします。
1 年次及び 2 年次に週 6 コマ分の演習(基礎科目(A 群))を課し徹底的に鍛え、英語を用いて読み、書き、聞き、話すことができるようにします。3 年次からは身に付けた英語を用いて、関連分野の研究を進めることができるようにします。

【ドイツ語・ドイツ文化専攻、ドイツ語・ヨーロッパ専攻、ドイツ語・ヨーロッパ文化専攻】
留学プログラムを通じてコミュニケーション力と異文化能力、さらにドイツからヨーロッパへと広がる多様な価値観を学べるようにします。
1 年次及び 2 年次に週 5 コマ分のドイツ語演習(基礎科目(A 群))を課して能力を引き出し、ドイツ語を用いて自分について表現し伝えることができるようにします。3 年次からは身に付けたドイツ語を用いて、さらに自分と世界がどのようにつながっているのか、知識とともに豊かな人間関係を構築するスキルを伸ばします。

【中国語・グローバルコミュニケーション専攻】
中国語圏に関する知識と、将来のビジネスシーンに対応できるスキルを学ぶことができるようにします。
1 年次及び 2 年次に週 5 コマ分の演習(基礎科目(A 群))を課し、発音を徹底指導して中国語修得の基礎固めをします。原則 3 年次に半年の留学をして語学力の徹底的なスキルアップをはかり、中国語の読み、書き、聞き、話す力を身につけます。中国語と同時に英語を 4 年間継続して学び続けることにより、グローバルな舞台で活躍するための地力を固めます。基礎科目(B 群)の学びにより身に付けた中国語圏に関する幅広い知識を土台に、3 年次から社会・経済・文化・歴史などより専門的な分野の学習ができるようにします。

経済学部

経済学部は、ディプロマポリシーに掲げる知識・能力を修得させるため、以下の方針に基づいて体系的な教育課程を編成・実施します。

・経済学の基礎を学ぶため、初年次教育として「基礎科目」を 1 年次に配置します。これらの科目では、大学での学修に必要な基本的スキルと経済学への関心を深める態度を養成します。

・専門分野である経済学を多様な視点から理解するために、「麗澤スタンダード科目」を配置します。麗澤スタンダード科目は、道徳教育、データサイエンス教育、世界の言語、リベラルアーツ、キャリア教育で構成されます。これにより、幅広い教養と国際的な視野を身につけることを目指します。

・経済学の専門科目は、経済学を体系的に理解するため段階的なカリキュラムを組みます。1、2 年次に配当される「基礎専門科目」には経済学の諸領域のコアとなる科目が配置されます。これらの科目では、経済学の基礎的な分析手法を習得します。

・1 年次に経済学の基礎を固めた後、2 年次から各自の進路や興味に合わせてそれぞれのコースに進みます。2 年次配当の「基礎専門演習」はコース別にクラスが分けられ、専門性を深める機会を提供します。また、コース別に履修推奨科目を提示し、学生の興味関心に応じた専門的学習を支援します。

・主に 3、4 年次に配当される「上級専門科目」では、経済問題や社会課題の解決に必要な応用的な経済学の専門科目が配置されます。このうち「専門ゼミナール」では、少人数での双方向的な専門的学習を通じて、思考力・判断力・表現力を養成します。

・通常の科目群に加え、公務員試験対策や中華圏経済ビジネスなどを専門的に学ぶ特別プログラムを配置し、学生の多様なキャリア志向や専門的関心に応じた特化型の教育機会を提供します

経営学部

①すべての学生に共通の知の基盤を構築するための麗澤スタンダード科目（教養科目）を設置する。
麗澤スタンダードは道徳教育、データサイエンス教育、世界の言語、リベラルアーツ、キャリア教育で構成する。

②「基礎科目」には経営学部の学びの基盤となる科目が配置され、すべての科目を必修科目とする。

③「基礎専門科目」にはデータサイエンスの基礎を確実に身に付けるための科目が配置され、「基礎数学」「ビジネスデータサイエンス基礎 A・B」は必修科目とする。

④「基礎専門科目」には経営学の諸領域のコアとなる科目を配置する。

⑤「基礎専門科目」には各専攻の特徴的な学びの基礎となる科目を配置し、上級専門科目における専門的な学びへとつなげる。

⑥「上級専門科目」では各専攻の特色ある学びを学生が能動的に学修するための科目を配置する。

国際学部

・CP(1)：共生社会を担う人間力を育成する教育課程　…　【対応 DP】 DP_A1・DP_A2　【対応 CP】CP(1)
多文化共生科目、海外留学、PBL 活動、ゼミナール等を通じて、多様な価値観や文化を理解・尊重し、新たな価値創出に必要な態度を養うとともに、共生社会の実現に向けて主体的かつ粘り強く行動する姿勢を育成する。

・CP(2)：世界と日本を理解する教育課程　…　【対応 DP】 DP_K1・DP_K2　【対応 CP】CP(2)
Global Studies 科目、Japan Studies 科目、多文化共生科目、国際交流・国際協力科目、国際社会・国際情報科目等を通じて、世界の文化・社会・国際情勢に関する理解と、日本の文化・社会に関する理解を深める教育を行う。

・CP(3)：学際的視点と「つなぐ力」を育成する教育課程　…　【対応 DP】 DP_K3　【対応 CP】CP(3)
学際研究入門、専門科目、ゼミナール等を通じて、人文学・社会科学・言語教育学などの知見を結び付けながら、多角的な視点で課題を理解し、異なる知識や価値観をつなぐ力を養成する。

・CP(4)：言語運用能力とコミュニケーション能力を育成する教育課程　…　【対応 DP】 DP_G1　【対応 CP】CP(4)英語、日本語およびその他外国語の学修を通じて、多様な背景を持つ人々と意思疎通を図る能力を養うとともに、自らの考えを適切に発信するための言語運用能力を育成する。

・CP(5)：論理的思考力と分析力を育成する教育課程　…　【対応 DP】 DP_G2　【対応 CP】CP(5)
アカデミックスキルズ科目、演習科目、調査研究、卒業研究等を通じて、多様な情報を収集・分析・評価し、自らの考えを論理的かつ批判的に形成・表現する能力を養成する。

・CP(6)：課題発見・解決能力と実践力を育成する教育課程　…　【対応 DP】 DP_G3　【対応 CP】CP(6)
PBL 科目、国内外実習、専門演習、地域連携活動等を通じて、社会の課題を発見し、その背景を分析したうえで解決策を企画・提案・実践する能力を育成する。

【グローバルビジネス専攻】

グローバルビジネスの現場で多様な文化的背景を持った人々と問題に取り組み、解決することのできる人材を育成するために、①国際共通語としての英語の運用力、②論理的分析力、③異文化コミュニケーション力の 3 つの力を身に付けます。具体的には、1 年次に ESS（English Summer Seminar）を通じて英語の基礎的運用能力を養成し、2 年から英語で専門科目を学ぶスタイルに移行していきます。専門科目では、経済学・経営学・社会学等を学際的に学ぶとともに、「GBS」「グローバル経営」「グローバルファイナンス・AI」「アジア太平洋ビジネス」の 4 コースに分かれ、特定の分野の専門知識を学ぶことで、論理的分析力を養っていきます。また、これと並行してグローバルリーダーシップを養うための科目群を履修します。上記一連の科目の体系的な学習を通じて、異文化コミュニケーション力を身につけていきます。

工学部

本学工学部では、各ディプロマ・ポリシーに対応して、それぞれカリキュラム・ポリシーを定めている。
・デジタル技術を駆使した課題解決のための技術的知識・経験や実装力の基礎を身につけるために、基礎数学や統計学等の基礎知識を身につける科目を配置する。
・情報システム工学に関する技術的知識・経験や実装力の基礎、さらにロボティクスに関する技術的知識・経験や実装力の基礎を身につける科目を配置する。
・実装力等の基礎を身につけるために、プロジェクトマネジメントを中核とし、プロジェクトデザインやユーザーとしての人間に関する理解（人間工学）、シミュレーションや経済性評価などに関する基礎的科目を配置する。

・社会課題の発見、共感・理解を経て解決に至る道筋を発想・設計し、技術力を活かしてその解決に向けて行動する知識、チームを構成して効果的に協働する知識等を自らの試行を通じて理解を深める科目を配置する。
・チームを構成してのプロジェクトの活動を含め、より豊富な実例や実践を通じて課題解決を推進する知識、経験を得る科目を配置する。
・社会課題の背景や従来の課題解決アプローチによって得られた経験等をより体系的に理解し、課題解決の実現性や持続性等を改善するために必要な知識を得る科目を配置する。

・文化や価値観・社会規範などの多様性、さらにそれらを踏まえた社会におけるエンジニアや技術の役割やあるべき姿、さらに技術が社会に与える影響などについて、事例を通じて基本的な知識を得るための科目を配置する。
・技術を起点とした解決の方向を議論・提案する力を身につけるために、事例を学びつつディスカッションやアイディア発表等を通じて力をつける科目を配置する。
・社会の変容に対して自らの成長の重要性を理解し継続して学び続ける力を身に付けるために、事例を通じて理解するとともに学びの手がかりを得るための科目を配置する。
本学では、演習や講義の形式にかかわらず、プレゼンテーション、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク、フィールド・ワーク等の「アクティブ・ラーニング」の手法を効果的に取り入れます。PBL を通じて、学生自らが問題・課題を発見し、立ち上げられたプロジェクトを実践する力を身に付けます。

学修成果の評価は、GPA 制度、「汎用的能力」調査、学生の学習時間調査等を運用することにより行います。成績評価は GPA 制度の運用及び FD の取り組みにより厳格さを担保します。成績は 6 段階（S・A・B・C・D・E）に区分し、履修者 30 名以上のクラスは S から C の合格者の割合を決めた相対評価を適用します。

<大学院>

言語教育研究科

ディプロマ・ポリシーに示した知識・能力の習得のため、「日本語教育」、「日本語学ほか」、「研究指導」の３つのグループから成るカリキュラムを編成します。
「日本語教育」科目では、第二言語教育学・日本語教育学に関する基礎的・専門的知識を身に付けさせるとともに、それを教育実践に応用できる能力を育成します。
「日本語学ほか」科目では、言語および言語教育に関係するデータを客観的かつ多様な観点から分析できる能力を育成します。
「研究指導」では、各個人の研究課題を追究し、その結果を学術論文として社会に発信する力を身に付けさせます。

経済研究科

世界で、あるいは地域社会において、日常的に発生する諸問題に対し、高度な学識と国際的な視野、深い洞察力と問題解決能力で対処でき、かつ高い倫理意識を兼ね備えた人材を養成するのが、経済研究科の目的です。
そのため、経済学・経営学の標準的な専門科目に加え、異文化コミュニケーションや国際社会における日本の歴史と役割、経営倫理学などを学ぶ科目を設置しています。
また、英語を母国語とする者が無理なく学ぶことができるようにするため、全て英語で行われる科目を多く設置しており、こうした科目を履修するだけで修了要件を満たすことも可能です。もちろん日本語を母国語とする者もこうした科目を履修することが可能であり、英語力を向上させることや留学生との交流を深めることができます。
さらに博士課程では、研究指導担当の教員以外の教員も参加して研究成果報告を行うリサーチセミナーを定期的に行います。これにより、研究成果は多面的に検証され、博士論文としてのクオリティーが高められます。

道徳教育専攻

学校教育の基盤をなすものとして道徳教育を捉え、深い学識、高い技能、効果的な実習による、理論と実践の往還を成し得る高度な指導力を身につけた教員の養成と、学校や教員に新たな知見を提供し得る専門的な学識を備えた研究者の育成を目的として、教育職員免許状取得者を前提に、学士課程教育によって培われた教職の基礎的な資質・能力の発展、あるいは教育現場での経験によって育まれた指導力を向上させる方針に基づき、科目群を配置してカリキュラムを編成しています。